

磯の生き物楽しく観察

鴨川と千葉大 親子6組が内浦海岸で 交流事業

鴨川市と千葉大学の同センターは、海の生き物の多様性が環境にとともにどのように変化したかなどについて、研究、教育している。交流事業は通常、地域に研究成果や知識を還元する目的で、年に1回行っていたが、直近の3年間は新型コロナウイルスの影響や天候不順により中止したため、4年ぶりの開催となった。

この日は、同センターの技術専門職、瀧口謙一氏の案内の下、ウニやヒトデ、カニなどを観察。児童らは、興味津々といった様子で、瀧口氏へ質問を重ねた。



磯で生き物を探す参加者ら＝鴨川

その後、同施設のギャラリィや水族館で、標本や写真、鴨川市付近の海に生息している魚などを見学。富樫辰也センター長が、研究内容などを紹介し、「大きくなったら、面白いと感じたことを一緒に研究しましょう」と誘った。

参加者は「カニや小さな魚を捕まえられて楽しかった」「ウツボやカンガセなど危険な生き物がいて驚いた」と感想を話した。